（10・25日毎月２回発行　　昭和53年６月25日　第三種郵便物認可）

自治体 **あいちの仲間**

2012.2.10
No.1042

発行責任者　柳　　進　定価　10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

発行所　自治労連愛知県本部　名古屋市北区柳原三丁目7番8号
ＵＲＬ　http://www.jaichi.jp　　TEL〈052〉916−2251
Eメール　info@jaichi.jp　　FAX〈052〉916−2308

「地域主権改革と市民生活を考えるシンポジウム」

- と　き　３月３日(土)13：00
- ところ　中区役所ホール

賃上げ、雇用確保で労働者・国民のくらしを守ろう

自治労連愛知県本部の第108回臨時大会が1月28日、一宮市スポーツ文化センターで開催され、31単組から118名の代議員が出席しました。大会では、消費税増税や社会保障改悪など「構造改革」路線をイッ気におしすすめようとする財界・政府に対して、2012国民春闘で、労働者・国民との共同の発展で攻勢に転じよう、強大な自治労連へ組織の増勢を勝ちとろうなど、活発な議論が展開され、満場の拍手で、すべての議案を採択しました。

一宮市
スポーツ
文化センター

第108回 県本部臨時大会

開会あいさつで伊藤執行委員長は、「政府・財界・マスコミぐるみによる公務員攻撃で、公務員と国民の分断を図り、悪政をすすめようとしている。この卑劣な流れを断ち切り、要求を前進させよう。すべての職場で総対話・総学習をすすめ、組織の増勢を勝ちとろう。2・11トヨタ総行動、3・11さよなら原発集会の成功へ、自治体労働者の奮闘を示そう。国民・労働者との共同を広げよう」と、力強く呼びかけました。

その後、望月書記長から第1号議案・12国民春闘方針案、付属議案・12年度統一要求(案)、第2号議案・11秋季年末闘争の中間総括について一括で提案。2012国民春闘のたたかいとして、①雇用の安定と生計費原則の賃金実現を求めるとりくみを強める。②大企業中心の社会・経済からの転換を求め、負担するべきは誰かの国民的議論を巻き起こすとりくみを広げる。③安全・安心の地域・自治体づくりをめざし、自治体・公務公共業務の拡充で、住民のいのちとくらしを守るとりくみをすすめる。④TPP反対、「税と社会保障の一体改革」＝「消費税率引き上げ」をはじめとする庶民増税反対、原発ゼロをめざしたエネルギー政策への転換という、3つの国民的課題での共同を広げる。⑤核兵器廃絶、安保条約破棄、在日米軍基地撤去を求める運動の前進。⑥組織の強化・拡大のとりくみを強める、の6つの柱をかかげました。

職場・地域からたたかいのうねりを

討論では、13単組・23人が発言。「職場人員闘争では、市民へどうやって公務の重要性を訴えるのかを論議」村田代議員（豊橋市職労）「非常勤職員の経験年数加算を勝ちとり、新たに2名の非常勤職員が組合に加入」山本代議員（蒲郡市職）「新規加入組合員への説明会を若手役員が座談会形式で行い、組合が身近に感じてもらえている」犬塚代議員（西尾市職）「春闘アンケートで、社会保障・税一体改革や国家公務員の賃下げに、組合員の関心が強かった。春闘の主要な課題としてすすめる」後藤代議員（港職労）「市民病院を守る会と共同で署名運動にとりくみ、院外助産院を開設することができた」牧野代議員（新城市職労）「非正規職員への夏期休暇付与を勝ちとり、減給保障廃止は撤回させた」佐久間代議員（岩倉市職）「医療相談員が足りないという支部からの意見で署名を集め、1名増を勝ちとることが出来た」中川代議員（豊橋市職労）「嘱託臨職交流集会でお互いの状況を認識し、組織強化へ大きな力になった」森畑代議員（名古屋市市職労）「東日本大震災で現地に駆けつけた。直営だからこそ、復旧活動に現場の力が発揮できた」大井代議員(名水労)「介護の、生活援助時間が短縮されようとしている。利用者の、生きる力を引き出す仕事が短縮される事に反対」津山代議員（なごや介護労組）「環境センターの臨時職員が雇い止めに。新設されるセンターへ1人でも多く行けるようにしたい」森代議員(一宮市労組)「看護士増員署名を3日間で1000筆以上集めた。要求闘争の中で活かしていきたい」鈴木代議員（半田市職）「非常に過酷な労働条件でやる気を失いかけている。労働条件を改善するために組合を強化していきたい」津志田代議員（名市病）など、活発な議論が展開されました。

99%の先頭に立って共同を広げよう

総括答弁

① 組織拡大は、組合を強く大きくする第1歩。組合員、職員の目に見える運動をつくって、2012春闘を職場から元気にたたかいをすすめよう。組合に共感を、信頼感を寄せる運動を築き上げよう。

② 非正規を含めた組織強化、賃金労働条件の改善も必要。人員増のたたかいも、住民のための仕事、住民の要求が何なのか、という立場で運動をすすめよう。

③ 保育・介護・防災等、住民が困っている時に手がさしのべられる、自治体労働者としてがんばっていく事が必要。制度要求など、住民とともに、運動をすすめよう。

④ アメリカ・財界のいいなりの政府は、労働者・国民の願いに逆行し、賃金削減や社会保障改悪・消費税増税などを、説明もなしに押しつけようとしている。それは、相手の陣営も行き詰まりの中で必死になっている現れ。今は橋本・河村・石原などが国民の怒りの受け皿となっているが、国民は、自公政治、民主党政治の「構造改革」路線にノーを突きつけている。

今は変化の時代。職場と地域から困難の原因がどこにあるかを考え、行動し、ひとつでも前へたたかいをすすめた時に、この時代を生きたという喜びにつながる。99%の先頭に立って、2012国民春闘に大いに奮闘しよう。

〝賃下げ法案〟廃案へ
国会前座り込み行動

国家公務員の賃下げは、公務員以外の労働者の賃下げにつながり、国内の購買力を低下させます。景気回復には賃金引き上げが必要であり、賃下げ法案はこの流れに逆行するものと、２月２日、厳しい寒さが続く中、賃下げ法案廃案にむけて、国会前座り込み行動が行われました。座り込みは、全労連公務部会が呼びかけ、とりくまれているもので、１月31日から、２月９日まで続けられています。この日、自治労連愛知からも参加しました。

スタート集会では、主催者を代表して公務部会・野村代表委員（自治労連委員長）があいさつし、「野田政権の悪政をゆるさず、賃下げ法案を廃案にさせ、国民生活を守るためにも、国民世論を大きくしていこう」と呼びかけられました。

将来に希望が持てる賃金を
最賃生活チャレンジ
愛労連学習会

１月26日、労働会館で愛労連主催の「最賃・賃金問題学習会」が行われました。学習会には、２月から始まる「最賃生活体験・家計簿チェック」への参加者を含む約30名が出席。愛労連吉良事務局長が、「生計費調査結果をいかし、生活できる賃金の確立をめざそう」と訴えました。

その後、神奈川労連福田裕行副議長が講演。現在の最低賃金が、「生活保護水準を下回る最低賃金は違法として起こした裁判を報告。全国的な支援を訴えるとともに、「すべての労働者の賃金底上げが、私たちの労働条件改善につながる。最賃問題を自分たちの問題として捉え、春闘をたたかい抜こう！」と呼びかけました。

出席者からは、「この春闘のカギを握るのは最賃・公契約問題だ」といった意見が出され、春闘に向け活発な議論がかわされました。

自治労連からは、55人が最賃生活にチャレンジ、80人以上が家計簿チェックに参加しています。

● 愛知の最賃額　750円
１日８時間１カ月22日働いても 132,000円
※最低生計費（税込月額）223,230円と比べても最低の生活をするのに 91,230円足りません。

愛知の最低賃金額は、750円で愛労連がとりくんだ最低生計費の調査結果（1285円）と比較しても58%程度です。最賃ギリギリの生活を余儀なくされる非正規労働者が増加するなか、就職難などから若者の失業率も高止まりしています。年収200万円以下の労働者が全体の22.9%を占める一方で、年収1500万円以上の富裕層は全体の1.2%（10年）。世界中で巻き起こっている１%の富裕層 Vs 99%の貧困層のたたかいは、日本でも広がりを見せています。

なくせ！ワーキングプアー

子どもの命守れる園に
最低基準の維持改善を
県本部保育所部会が県と懇談

１月19日、県本部保育所部会は、愛知県の子育て支援課と保育所の最低基準問題等で、話し合いをもちました。現行の保育所最低基準や県の基準を維持・改善する要望に対して県は、「現行を下回ることはない」「市町村の関係者にも聞いて、24年度中に条例化したい」と回答しました。

懇談で県は、「所管の認可園について、図面を見て面積・人員を調べた。定員オーバーの園に対しては、定員の見直しか部屋の拡張を依頼した」と説明。面積基準については、「７３１園中、９割は乳児室の面積基準３・３㎡をクリアしていた」とする一方、職員配置基準については、「現行の最低基準どおりでいきたい」と発言しました。

保育所部会からは、低年齢児の途中入所に対する補助金や建物の耐火基準などの意見が相次ぎました。また、東日本大震災を経験した保育士の話をもとに、「実際に震災などの危機に直面した時、今の人員配置基準で子どもの命を守りきることが出来るのか。検討をお願いしたい」「条例化の検討会メンバーには公募を使って欲しい」と要望。県は、「職員配置基準の一律の条例化は難しい」「公募は考えていない」と回答しました。

言ーたい劇場
小菅りや子

自治労連 セット共済 安くて安心
掛金 1790円/月 ⇨ 病気入院 5000円/１日

仲間の声

▼嘱託の方たちも、正職員と同じように働いています。同等の身分・条件で働けると、やりがいも増していいですね。（原潤子・名市病労組）

▼昨年は、宮城県の復興支援の一助として「石巻の笹かま」を職場で共同購入したり、お歳暮につかいました。今年も東北を応援したいと思います。（南波喜恵子・名古屋市職労）

▼以前は、組合の仲間と何でも話し合えた気がします。給与の昇給がむつかしい今、もっと話し合えるといいと思います。気軽に誘い合える組合に。（早瀬牧子・学事労）

▼５月に子どもが生まれますが、バレーボールの試合に出れたらいいな。今年は名古屋に勝ちたいなぁ。（竹内彩子・豊橋市職労）

2012年度 勤労者通信大学

● **基礎コース**
①哲学　②経済学　③階級闘争
※ 受講料 15,000円

● **労働組合コース**
①権利　②要求　③団結
※ 受講料 12,000円

※各コースとも、修了者には受講料の半額を県本部から補助します。